

2023年9月15日

(送付先) アサヒグループ食品株式会社、ハウス食品株式会社、日清食品ホールディングス株式会社、日本マクドナルド株式会社、キリンホールディングス株式会社、株式会社ニチレイ、ケイエス冷凍食品株式会社、味の素株式会社、日本ハム株式会社、理研ビタミン株式会社、不二製油グループ本社株式会社、株式会社ニッスイ、キッコーマン株式会社、株式会社ヤクルト本社、東洋水産株式会社、キューピー株式会社、昭和産業株式会社、株式会社J-オイルミルズ、森永製菓株式会社、エスビー食品株式会社、フジッコ株式会社、井村屋グループ株式会社、株式会社ブルボン

食品トレーサビリティに関するアンケートのお願い

たねと食とひと@フォーラム

代表 石津大輔

東京都千代田区神田錦町 3-21

ちよだプラットフォームスクウェア 1342

電話 050-6877-5616

Email info@nongmseed.jp

<https://nongmseed.jp/>

貴社ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

たねと食とひと@フォーラムと申します。弊会は「たね」という観点から、私たちの社会において、食と農がどのように生態系生物多様性に関係しているかという問題提起をしてきました。公開質問による調査、現場への取材や講座の開催などを中心に活動を行っております。

さて、このたび、貴社のホームページで「トレーサビリティ」の欄を拝見いたしました。

貴社と「食品トレーサビリティ」のかかわりについて率直なご意見を伺いたく、アンケートをお送りいたします。

農林水産省では、食品事業者が食品を取り扱った際の記録を作成し保存しておくことで、食中毒など健康に影響を与える事故等が発生した際に、問題のある食品がどこから来たものであるか、どこに行ったかを調べることができる食品トレーサビリティの取組を推進しています。

また、消費者の食に対する安全・安心の関心度の高まりなどさまざまな面から食品の移動経路を確認できる食品トレーサビリティの必要性が高まっています。新聞などで「食品トレーサビリティ」を目にする機会も増えました。

近い将来に基礎的な食品トレーサビリティが法制化され、より活用できるものとなることを願っております。

恐れ入りますが、別紙の質問用紙に9月30日(土)までにご回答いただきますようお願いいたします。なお、ご回答につきましては、その有無も含めて弊社ホームページ等に掲載いたします。

送付先 Email : info@nongmseed.jp 又は Fax : 03-6869-7204

質問用紙をデータでお送りすることもできますので、お手数ですが、info@nongmseed.jp にご連絡いただけましたら幸いです。

以上

- ① 貴社がトレーサビリティシステムを導入されるきっかけとなった事柄と理由。また、導入目的と導入時期をお教えてください。
- 導入のきっかけとなった事柄と理由について

 - 導入の目的について

 - 導入の時期について
- ② これまでにトレーサビリティシステムが役に立った事例がありますか。
- ③ トレーサビリティシステム導入までの過程で費用面等、ご苦労されたことは何でしょうか。
- ④ トレーサビリティシステム導入後の課題は何でしょうか。
- ⑤ 食品の入荷記録と出荷記録の保存という基礎的なトレーサビリティの法制化された場合のメリットとデメリットについてどう思われますか。
- メリットについて

 - デメリットについて
- ⑥ 生物多様性の保護を目的としたトレーサビリティの導入についてお教えてください。
- すでに導入されている場合、その内容について

 - 今後導入を予定されている場合、その内容について

以上、ご協力ありがとうございました。